

Title	【定年退職教授の履歴および主要業績】 森川和則教授
Author(s)	
Citation	大阪大学大学院人間科学研究科紀要. 2024, 50, p. 311-315
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/94740">https://hdl.handle.net/11094/94740</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

**【定年退職教授の履歴および主要業績】**

もり    かわ    かず    のり  
森    川    和    則    教授



もり かわ かず のり  
森 川 和 則 教授

昭和 58 年 3 月 東京大学 文学部心理学科 卒業  
昭和 61 年 3 月 東京大学 大学院人文科学研究科 心理学修士課程 修了  
平成 5 年 6 月 (米国) Stanford 大学にて心理学博士号 (Ph.D.) 取得  
平成 5 年 10 月 California Institute of Technology 生物学部 博士研究員  
平成 8 年 1 月 (米国) Rutgers 大学 視覚研究所 博士研究員  
平成 10 年 8 月 State University of New York, Optometry 大学院 研究助教授  
平成 11 年 4 月 小樽商科大学 商学部 社会情報学科 教授  
平成 16 年 4 月 大阪大学 大学院人間科学研究科 教授 (現在に至る)  
平成 20 年 4 月 大阪大学社会経済研究所 兼任教授 (現在に至る)  
令和 6 年 3 月 大阪大学定年退職 (予定)、同 4 月名誉教授 (予定)

森川教授は、1983 年 3 月東京大学 文学部心理学科を卒業し、1986 年 3 月東京大学 大学院人文科学研究科 心理学修士課程を修了 (心理学修士)、その後 1988 年にフルブライト奨学金を得て米国スタンフォード大学心理学部大学院に留学し、1993 年 6 月に心理学博士号 (Ph. D.) を取得した。指導教員は多次元尺度構成法の開発や心的回転 (mental rotation) の研究で世界的に有名な認知心理学者 Roger Shepard 教授であった。その後、1993 年 10 月からカリフォルニア工科大学生物学部、1996 年 1 月からラトガーズ大学視覚研究所にてポスドク研究員として、さらに 1998 年 8 月からニューヨーク州立大学オプトメトリ大学院にて研究助教授として研究を継続した。合計 11 年近くの滞米の後、1999 年 4 月に小樽商科大学 商学部 社会情報学科に教授として着任、国際交流センター副センター長などを務め同学の国際化に貢献した。2004 年 4 月、大阪大学大学院人間科学研究科教授に着任した (現在に至る)。2008 年 4 月からは大阪大学社会経済研究所 兼任教授を務めている (現在に至る)。2024 年 3 月限り定年退職する予定である。

この間、長年にわたって学部生・院生の教育に貢献した。特に G30 プログラム (後に人間科学部英語コースとなる) には創設当初から深く関わり、英語コースの学生と OUSSEP 留学生を対象にした英語による授業を毎年提供し、教育の国際化と国際交流に努めてきた。研究においては視知覚の基礎プロセス (明るさ知覚、運動知覚、テクスチャ知覚、奥行き知覚など)、錯視、顔の知覚、心的回転、視点取得、損得判断、ギャンブル心理などの幅広い研究を行い、研究成果を主に国際学術誌に発表してきた。基礎研究のみならず、化粧品メーカー、自動車メーカー、アパレルメーカー、電機メーカーなど計 11 社の企業との延べ 27 件の共同研究も積極的に行い、基礎研究を実用・応用に生かすことに尽力した。特筆すべきは企業との共同研究に関連して 3 件の特許出願を行なったことである (うち 1 件はすでに特許取得済み、残り 2 件は特

許審査中)。いわゆる文系学部の研究者が複数の特許を出願することは極めて稀であり、研究成果の独創性と社会実装の面から高く評価される。また森川教授の錯視研究と顔知覚研究は社会から大きな注目を集め、2011年から2023年の間にテレビ番組の出演36回、研究が紹介された(または監修をした)テレビ番組9回、ラジオ番組出演2回、新聞記事による研究紹介9回となっている。

森川教授は、学内では大阪大学学部入試出題委員、人間科学研究科行動学系幹事教授、教務委員、財務会計委員、国際交流室委員、図書委員、教育国際化推進委員会委員などを務めた。とりわけ教育国際化推進委員会委員の任期は長年に渡り、国際化に大きく貢献した。学外では日本心理学会編集委員、日本基礎心理学会理事、日本心理学会代議員、日本基礎心理学会第40回大会長、第31回国際心理学会議(ICP2016)組織委員および広報委員、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員などを務めた。

受賞歴としては、錯視コンテスト(日本基礎心理学会主催)入賞4回、第8回世界錯視コンテスト(the World's Best Illusion of the Year Contest)トップ10入り、2017年日本色材協会誌(JSCM) Most Accessed Review Award受賞、学生との共著発表に対する優秀発表賞・奨励賞を計10回受賞(日本心理学会、日本認知心理学会、日本基礎心理学会など)。

以上のように、森川和則教授は研究、教育、運営、社会への貢献を通じて人間科学部・人間科学科および心理学の充実と発展に尽くした。

## 主 要 業 績

## 主要著書（分担執筆）

1. 森川和則 (2018). 「ポイントメイク化粧視覚効果測定への心理物理学的方法の応用」. 正木仁・鈴木敏幸・安藤秀哉 (編) 『最新・化粧品開発のための美容理論、処方／製剤、機能評価の実際』第 26 章, pp.262-269, 技術教育出版社.
2. 森川和則 (2020) (監修) . 「どんな服でも似合う人になる 着こなしの法則：スタイルを作る“魔法の錯視”」 日本文芸社.
3. Morikawa, K. (印刷中) . Geometric illusions in the human face and body. In Arthur G. Shapiro, Dejan Todorović, & Kohsuke Takahashi (Eds.), *The Oxford Compendium of Visual Illusions (Second Edition)*. Oxford University Press: New York.

他 6 冊

## 主要学術論文

1. Morikawa, K. (2005). Adaptation to asymmetrically distorted faces and its lack of effect on mirror images. *Vision Research*, **45**, 3180-3188. <https://doi.org/10.1016/j.visres.2005.08.004>
2. Morikawa, K., Matsushita, S., Tomita, A. & Yamanami, H. (2015). A real-life illusion of assimilation in the human face: eye size illusion caused by eyebrows and eye shadow. *Frontiers in Human Neuroscience*, **9**: 139. <https://doi.org/10.3389/fnhum.2015.00139>
3. Kobayashi, Y. & Morikawa, K. (2023). Vertical anisotropy in lightness perception not caused by lighting assumption. *Vision Research*, **206**. <https://doi.org/10.1016/j.visres.2023.108193>

他 93 編